

---

HAPPY BIRTHDAY

光琉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

HAPPY BIRTHDAY

### 【Nコード】

N2557I

### 【作者名】

光琉

### 【あらすじ】

カカシ先生の誕生日話なのにちょっと暗いです…。

あんたなんて生まれなければ良かったのに。写輪眼が欲しかったからオビトを見殺しにしたんだろ。やっぱり悪魔の子だね

am5:00 ガバツ!

「ハアツハアツハアツ。はあゝ。最悪」今日は9月15日。

「母の命日…忌まわしい俺の…誕生日…」一年で一番嫌いな日。カカシは、何時ものように忍服を着て、額あてをし、家を出る。行くところは毎日欠かさず行く慰霊碑のところ。その頃七班

の子供達は集合場所に向かって歩いていった。…

「今日の集合って6時で第三演習場(サバイバル演習)で使った。よね?」

「どーせ先生遅れてくるってばよ。それよりさ、それよりさ、今日カカシ先生誕生日なんだって。」

「嘘つ。プレゼント用意してないわよ。」

「大丈夫。俺もだってば。」

「なんであんたまでないのよ!」

「忘れてたんだってば!でもいい案があつてさ」

「なによ。」

「皆で金出し合って、一楽のラーメンおごってやんねえ?」

「えー」

「いいんじゃないか。上忍なんだし、形が残る物は渡せねーだろ。」

「そ、そーよね。(サスケ君カツコイイ　しゃーんなるー!)」

「なあなあ。あれってカカシ先生じゃないか?」ナルトが指差したのは、慰霊碑にたたずむ銀髪の人だった。

「そーみたいね。なにやつてるか見に行きましょう(こーゆーのつて気になるのよね)。しゃーんなるー!」三人はこそこそとカカシに一番近い木の上に隠れる。

「……………」

「何て言ってるのかしら？」

「今日は俺の一年で一番嫌いな日が来ましたよ。俺、先生が死んだ時の歳と同じになったんですよ。」

「……！！！！」

「つい最近まで赤ん坊だったナルトももう十三歳なんてね。俺も歳とるはずだろネ。今日も一日あいつらを守って下さいね。先生……今日を祝ってくれたのは先生くらいですね」

「……」

「今日は早くいってみようかな？ナルトとサクラに雨が降るかもとか言われたりして。」

「先生！どうしたんだってば？こんなはやくに」

「雨でも降るんじゃないかしら。」

「ホントだな。」

「ちよつとね。……さあつて、今日の任務は、第三演習場の慰霊碑とその周りの掃除だ。」

「よし。早く終わらせるぞ。」

「……おうっ！！」

「うん！」

「……？（珍しい、ナルトがこんなにやる気なんて。それこそ雨降るんじゃないか？）三人は、カカシが見てないのを見計らって、

「よしっ。カカシ先生見てないってばよ。」

「どうしたのナルト？」

「カカシ先生俺らが誕生日知ってるって知らないみたいじゃん？だからさ、この任務が終わ

った直後にさ、皆でおめでとうっていつてビックリさせねえ？」

「いいわね！それ！」

「サスケは？」

「ああいいんじゃない？」

「よしっ！早く終わらせるぞ！」皆すごいスピードで任務を終わらせる。その頃カカシ。

「（俺は幸せになつてはいけないんですか？先生。やっぱり生まれなきゃよかつたんですか？）」

「先生！任務終了だつてば！」

「早かつたねえ」

「おう！じゃ、皆いいか？」

「????？」

「ああ。」

「うん！」

「せーの」

「「「HAPPY BIRTHDAY！カカシ先生！！！」」だっ

てばよ！」

「！！！！！！」

「ほらっ！引いたじゃない！」

「えゝ。センサー今の何点？」・・・ボンツ

「「「！！！！」」次の瞬間三人はカカシに抱き込まれる用に立っていた。

「百点。」

「へへっ。」

「ふふっ。」

「ふんっ。」　嗚呼先生すみません。

「あのさ、先生！誕生日プレゼントは、一楽のラーメン。三人で金出しておごつてやるからな！」

「ああ」

俺今すっごく

「ナルト、サスケ、サクラ、」

「「「????？」」」

「ありがとう。」

「へへっ。」

「ふふっ。」

「フツ。」

「幸せです。」「早かったねえ」

「おう！じゃ、皆いいか？」

「??？」

「ああ。」

「うん！」

「せーの」

「「HAPPY BIRTHDAY！カカシ先生！！！」」だつてばよ！」

「！！！！！」

「ほらっ！引いたじゃない！」

「えへ。センセー今の何点？」・・・ボンッ

「「！！！！！」」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2557i/>

---

HAPPY BIRTHDAY

2010年10月21日23時08分発行